

派遣先所属 福島県商工労働部企業立地課
 氏 名 山本 久美子 (やまもと くみこ)
 派遣期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の企業立地課は、主に県内への企業誘致や、すでに立地している企業への支援・管理を行っています。私は企業誘致担当の中の補助金チームに所属し、福島県プロパー職員3人と他県からの派遣職員4人（今年度は愛知県、長崎県、埼玉県2人）で、「ふくしま産業復興企業立地補助金（通称：ふくしま補助金）」の補助金交付業務を担当しています。

地域経済への波及と地域振興への貢献が期待される県内に立地する企業に対して補助金を交付し、製造業等の生産拡大及び雇用創出を図ることで、地域経済の復興再生に寄与することを目的としています。今年度の第1次公募で新たに34事業が補助金の指定を受け、163人の雇用が計画されています。第1次からの累計では、551事業が指定を受けており、7,041人の地元雇用が生まれる見込みです。



▲「ふくしま復興のあゆみ第26版」から引用

年度当初は、第1次公募の申請時の相談及び審査業務として、企業から福島県でどのような事業を行おうとしているのかを聞き取り、適切に審査が行えるよう書類の整理を行いました。公募終了後は、指定済み企業の交付申請時の支払証拠書類等の確認・審査業務、実績報告時の雇用確認業務を進めています。

本補助制度は平成24年度から運用していますが、最近の傾向としては、補助金の受給要件の一つである雇用要件を満たせないがために補助金を受給できない企業が出てきています。福島県

の有効求人倍率はここ数年、1.50前後と高止まりしているため、ただ求人票を出すだけでは人材が集まらないのが現状です。

そこで、平成28年度から、本補助金指定企業を対象に、雇用に関するコンサルティングを無料で受けられるという事業も実施しています。私はこの事業も担当しており、対象企業の募集などを行っています。委託事業者主催の大学の就職担当者と企業の採用担当者との懇談会に参加した際、首都圏の大学から地元へUターン就職する割合は2割前後という現状を教えてくださいました。また、地元を離れる前、すなわち高校生までの間に地元の企業を知る機会を作ることが重要ではないかという意見もありました。雇用創出の実現には、企業への支援だけでなく、若者への働きかけなど、多角的なアプローチが必要だと感じました。

2 被災地の復旧・復興の状況

昨年度に比べて、仮置き場に保管している除去土壌が減少しています。県内各地を訪れる度に、除去土壌を詰めたフレコンパックが少なくなっていたり、仮置き場自体がなくなっていたりと、各市町村が主体となって、搬出業務を着実に遂行している成果が現れています。しかし、まだまだ搬出が終わらず、産業や農業などに活用したくてもできない土地がたくさんあります。

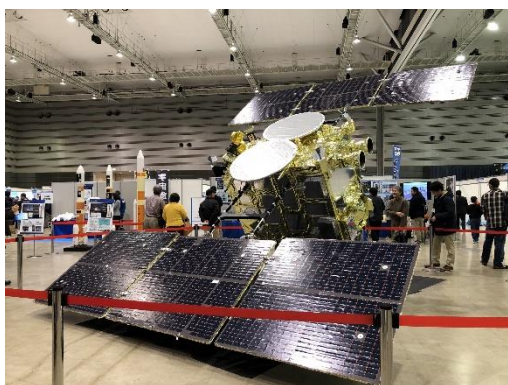
そのような中で、今年は台風19号による甚大な被害が生じてしまいました。目に見える損傷はなくても、一度浸水すると水が引いた後にそのまま使えるものは少なく、元の生活に戻るには多大な労力と費用を強いられています。今回の台風被害を受けた方の中には、東日本大震災からの復旧のための借入金の返済が済んでいない方もいらっしゃいます。国から様々な支援制度が打ち出されていますが、震災との二重被害に遭った方にとっては、精神的にも金銭的にも十分とはいえない面があるため、画一的な制度ではなく、地域ごとに実態に合わせた制度となるよう考えなければならないと実感しました。



◀ 10月13日の自宅近くの様子（福島市）

台風被害はありましたが、震災からこれまで、県内の産業振興に努めてきた成果が確実に出ていて、2011年から2018年までに福島県に立地した企業は604社あります。震災後に落ち込んだ製造品出荷額も、2018年に震災前と同水準まで回復しました。また、航空宇宙産業

の認証取得企業が25社あり、今年小惑星リュウグウへのタッチダウンが成功した「はやぶさ2」の製作に関わった企業や大学も複数あります。高い技術力を新たな取引につなげるための支援も行っていて、今後の取引拡大が期待されます。



◀「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2019」
はやぶさ2ブースの様子

3 被災地へ派遣となって感じたこと

あまりないパターンですが、私は昨年度と今年度で、福島県庁の別の課に配属となりました。4月当初は昨年度の仕事を継続できなかったことを残念に思う気持ちが大きかったのですが、企業立地課という別の分野で仕事をする中で、福島県の産業面を知ることができたり、県庁内の知り合いが増えたりして、さらに視野が広がったため、今では企業立地課に異動できて良かったと思っています。

福島に住み始めて1年半が経ち、今では埼玉に行って福島に戻ってくる時は、「埼玉に帰る」のか「福島に帰る」のかわからなくなるほど、福島が「ふるさと」になっています。そうなれたのも、毎週のように登山に一緒に行ったり、ランチや飲みに行ったりする仲間ができたからです。幸運にも気の合う方に出会えただけかもしれませんが、埼玉を離れることで、新しい環境への抵抗感が少なくなり、自分から様々な場所に出向くようになったことが良かったのだと思います。

具体的なことは差し控えますが、震災当時の話や、現在の福島やこれからの福島への思いを聞かせていただくこともありました。それぞれに複雑な思いを抱いていますが、福島を良くしていきたいという思いを誰もが持っていることを知り、そんな皆さんの力になりたいと改めて思いました。

また、福島県に立地する企業の中には、本社が埼玉県にある企業もあり、福島と埼玉のつながりを感じられてうれしく思います。このようなつながりを活用して、福島と埼玉が協力してお互いが盛り上がるようなことをしてみたいとも考えています。

来年度からはまた埼玉県職員に戻る予定ですが、福島での経験や人とのつながりを生かして、埼玉や福島に貢献していきたいと思っています。

最後に、福島の素敵なおところをご紹介します。実物の方が何倍も素晴らしいので、ぜひ福島にいらしてください。



▲鶴ヶ城の桜 (会津若松市)



▲夜の森の桜並木 (富岡町)



▲ジュピアランドひらたの芝桜 (平田村)



▲産ヶ沢川のホタル (桑折町)



▲南湖公園・翠楽苑の紅葉 (白河市)



▲福島空港内のジオラマ展示 (須賀川市)